

XVI. 慢性疼痛集学的治療チーム

慢性疼痛は全成人の約30%が罹患しているとされており、わが国の健康損失の原因にもなっている。痛みは慢性化するに伴い、罹患部位の器質的異常や身体機能だけの問題ではなくなり、精神的要因、心理的要因、社会的要因が複雑に絡み合い、症状を増悪させ遷延させる。そのため慢性疼痛治療においては、医師とメディカルスタッフによる総合的かつ集学的な対応が求められ、患者さん個々の背景に合わせたきめ細かい治療内容、治療目標等を設定した集学的治療が必要である。

慢性疼痛集学的治療チームでは、患者さんと医療者の間で問題を共有し、また医療者間でもコミュニケーションを図りながら、治療目標を決定している。痛みの軽減だけが目的ではなく、社会活動を促進し、日常生活の質を高められるよう介入している。また、厚生労働省主催の慢性疼痛診療システム均てん化事業に参画しており、その活動の一環として慢性疼痛に携わる医療従事者を対象に研修会を開催した。

XVI-1 チーム構成員

ペインクリニック部 医師1名 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医師1名
精神科神経科 医師1名
公認心理師 2名 理学療法士 2名 管理栄養士 1名 看護師 1名

XVI-2 活動内容

対象は主にペインクリニック外来の患者さんで、慢性疼痛に対する集学的治療が適応であると判断し、患者さんが希望した場合にチームで介入する。痛みに対する治療計画を立案しつつ、看護師が病歴・家族歴など全般的な生活情報を問診し、痛みに関連する不安や悩み・心配事を傾聴し必要なサポートを行う。慢性疼痛に併存する精神疾患がある場合には精神科神経科医師と情報を共有し治療について検討する。理学療法士により身体機能・筋力および体力の評価を行い、必要な運動について指導する。公認心理師により、痛みに対する適切な知識と対処法を含む心理教育および心理療法を実施する。食欲不振・肥満などがある場合には、管理栄養士による栄養素や消費カロリーを勘案した食事・栄養面のサポートを行う。患者個別のスケジュールで実施し、定期的にチームカンファレンスを開催し、治療効果を評価している。またチームでの活動内容を各職種が学会などで積極的に報告している。

XVI-3 2024年4月～2025年3月介入件数

対象患者	
件数	37
年齢（中央値）	12-80(49)
男女比	10:27

介入時の診断

診断名	件数
慢性一次性慢性疼痛	18
慢性がん関連疼痛	1
慢性術後または外傷後疼痛	5
慢性二次性筋骨格痛	1
慢性二次性内臓痛	1
慢性神経障害性疼痛	6
慢性二次性頭痛または口腔顔面痛	5

XVI-4 研修会の開催

令和6年度厚生労働省
慢性疼痛診療システム均てん化等事業
近畿地区共催セミナー

慢性疼痛の治療
これから疼痛治療をはじめる医師
メディカルスタッフ対象

日時 2025年2月10日[月] 18:00～19:00
場所 ハイブリッド開催
兵庫医科大学病院 第3会議室 または ZOOM
対象 慢性疼痛に関わる または
興味のある医療従事者

主催:兵庫医科大学病院ペインクリニック部
共催:厚生労働省慢性疼痛診療システム均てん化等事業

参加 無料

仙台ペインクリニック院長
演者 伊達 久 先生

慢性疼痛診療の概略とその主な治療について、
基礎的なことからお話しさせていただきます